

麻布学園創立120周年記念「連続教養講座」

第2回 中国

目まぐるしく動く世界にあって、出来事のセンセーショナルな側面に目を奪われることなく、冷静に現実を捉え、未来を見渡す視点とはどのようなものでしょうか。インド、中国のように多くの人口を持ち、経済発展が著しいアジア。北朝鮮の核実験や韓国、中国、日本などの領土問題にも揺れる東アジア。そうしたなかで、とりわけ現代における新しい大国である中国については、偏狭なナショナリズムを超えて、アジア、そして世界の平和のためにもしっかりとした情報・知識に基づいた認識が求められましょう。

世界を舞台に活躍するジャーナリスト、中国通の著名なエコノミストのお二人のお話にじっくりと耳を傾けたいと思います。気心の知れた麻布の同期生としてのお二人に、乞うご期待！ 多くの皆さまのご参加をお待ちしております。

自分自身の問題として、アジア・世界における中国を考える

日時：2013年6月8日（土） 会場：麻布学園講堂
（13:00開場 13:30開始）

入場無料です。学園関係者に限らずどなたでもご参加いただけます。

講演・対談者



・会川晴之（あいかわ はるゆき）氏

1978年麻布高校卒。毎日新聞社編集委員、前欧州総局長。

日本と米国がモンゴルで進めた国際的な核廃棄物処分場計画の秘密交渉についての報道で、優れた成果を上げた記者に贈られる2011年度のボーン・上田国際記念記者賞受賞。



・瀬口清之（せぐち きよゆき）氏

1978年麻布高校卒。キヤノングローバル戦略研究所研究主幹。

日本銀行入行後、在中国日本国大使館書記官、米国ランド研究所フェロー、日銀北京事務所長。2009年3月日本銀行退職後、現職。

第1回目の「連続教養講座」は、去る2月16日（土）に麻布学園講堂にて、「最新天文学と太陽系探査— 宇宙へ、未来へ、麻布生へ—」と題し、講演・対談者として海部宣男氏（1962年卒、国立天文台名誉教授）、中村正人氏（1978年卒、宇宙科学研究所教授）、司会者として伊藤哲也氏（1992年卒、国立天文台先端技術センター主任技術員）をお招きして開催されました。